

ATに対応した「新しいガイド制度のあり方」論点整理（案）

□ ATの価値の啓発（事業者自身含む官民挙げた周知）

- ATTAが提唱するATの5つの体験価値
 （ ① 今までにないユニークな体験 ② 自己変革 ③ 健康 ④ 挑戦 ⑤ ローインパクト ）
- テーマ「本物」 → 道内外（特に道内）に正しい認識を根付かせる仕組み必要

□ 北海道におけるツーリズムの新しいパターンの必要性

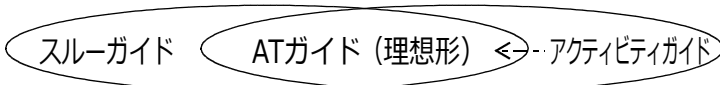
- 顧客を想定 ⇒

{	既存パターン	:	例) マスツーリズム（教育旅行等）
	新たなパターン	:	ATに対応した作り込み

□ ATの担い手と求められる要件

ツアーオペレーター	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資格等の要否、方向性（ビジネス直結or取得奨励） ○ 北海道が財産として守りたいエリア→事業者認定の検討（参考：知床五湖の登録引率者～エリア毎のプロの存在）
スルーガイド	<ul style="list-style-type: none"> ○ ATGSにおけるATに必要な知識
アクティビティガイド	<ul style="list-style-type: none"> ○ ISO基準への対応要 ~ 道アウトドアガイド資格はISOに近い水準

○ 「ATガイド」の制度設計が必要



〔アウトドアガイドとATガイドの棲み分け〕

道の現行ガイド資格 { を基に幅をもって検討するのか or に準じた新しい制度の検討か }

- ・ ハイレベルなガイド等の一部がATに対応するイメージで良いか
- ・ GSTC (※) 基準をどこまで入れるのか
- ・ ATWSを契機に、人材育成と並行して、海外マーケットへの販売支援に取り組む必要
- ・ 認定・格付けは、ニュージーランドのクォールマーク制度が参考になるのでは
- ・ メリットやインセンティブをどうするのか
- ・ 地元のものづくり企業との連携

□ 顧客ニーズに対応した領域（ヨコの広がり） ~ 持続的な形で北海道に根付かせる

- 未対応分野（シーカヤック、フィッシング、ハンティング、アウトドアのミーム（習慣・技術）等）
- 北海道の土地・歴史・文化に関する知識・解説
- 異文化体験等のソフトアドベンチャー（農業・縄文・アイヌの文化から居酒屋ホッピングまで）

□ 「品質保証」と目指すべき技術水準（タテの広がり）

- アクティビティの安全・安心の担保 → ガイドの評価・地位向上
- より高いレベルのガイドスキル、コミュニケーション能力（英語スキル等）
- 最低限必要なMIC、保険、ギアの整備 + 海外エージェントに保証する仕組み

□ 運営団体及び運営の方法（計画への位置づけ、条例改正の要否）

- 条例化を含め、知事認定制度の拡充を検討するのか
- 民間の任意団体が運営するなど、柔軟な制度を検討するのか

※ GSTC : Global Sustainable Tourism Council（世界持続可能観光協議会）